

ランチョンセミナー2

演題名	病院から在宅までの栄養管理
-----	---------------

概要

わが国でも栄養管理はすべての医療の基本であるという認識が普及してきている。病院では栄養管理をチームで行う NST（栄養管理チーム）が入院時から退院までの栄養管理を行うようになり、早期からの栄養介入を行うことで合併症の予防などの効果をあげている。しかし急性期病院では DPC の導入などでますます在院日数が短縮されており、入院中に栄養管理のすべてが終わることは少ない。そのため栄養（NST）外来を設置してフォローを行っている施設もみられる。しかしほとんどの患者は在宅や介護施設にて栄養管理を続けていくことになる。質の高い栄養管理を継続するためには地域の医療・介護にたずさわる人々が連携していくことがとても重要となる。また栄養管理の目的は患者によって違い、リハビリテーションをしっかりと行うための栄養管理、摂食嚥下訓練を行って胃瘻から離脱するための栄養管理、がんと闘うための栄養管理、静かな最期を迎えるための栄養管理などさまざまである。その目的に合わせた栄養管理を行うことが大切であり、患者の状態、介護者の状況に応じて適切な栄養管理法を選択できるように関係者で話し合うことが重要と考えている。在宅での栄養管理には経口、経静脈、経腸とさまざまな栄養投与ルートが選択可能であり、経口では使いやすい経腸栄養剤だけでなくあいーとのような摂食支援食品を選ぶことで栄養摂取を楽しみに変えることも可能になる。また胃瘻など経腸栄養管理でも半固形化製品を選択することで介護者の負担を減らし、患者のリハビリテーション時間を確保することで ADL の改善につなげることができるようになっている。在宅生活をより充実したものをするための栄養管理を関係する職種みんなの知識、技術で支えていくことが求められている。当院で経験した症例を中心に紹介したい。